民意無視の党利党略

「都」構想・カジノ止めよう

松井一郎大阪府知事（大阪維新の会・代表）と吉村洋文大阪市長（同政調会長）は8日、それぞれ知事、市長を辞職し、松井氏は市長選、吉村氏は知事選にクロス（入れ替え）で立候補する意向を表明しました。府・大阪市議選（4月7日投票）と同日実施。維新の前倒し知事・市長ダブル選強行劇をとうみるか、考えます。（渡辺健）

大阪入れ替えダブル選

行き詰まって

「（とこのままでは）死んでも死にきれない」。松井知事は7日夜、「大阪都」構想の設計図を議論する法定協議会で今秋に住民投票を実施するとした工程表が、自民党、公明党、共産党の反対多数で否決されると、悔しさをにじませました。「大阪維新の会」の一丁目一番地である「大阪都」構想の実現への道筋が見えなくなる中、「もう一度民意を聞きたい」と知事・市長ダブル選を前倒し実施する姿は、大阪の維新政治の行き詰まりを象徴しています。「二度とこんな挑戦」。維新は知事・市長ダブル選を統一地方選前半戦と同時実施することで、府・市議会で単独過半数獲得を有利にしようとの戦略に打って出ました。「大阪市をなくすな」との民意を置き去りにした党利党略です。

強引なやり方

公明党は15日の住民投票では、「都」構想に反対を表明しながら、住民投票には協力。改憲・維新の協力を得たい安倍自相官邸が創価学会に働きかけた伝えられています。公明党は、今回もいったんは「今任期中で住民投票を実施する」わしましたが、しかし、「任期中」の解釈をめぐり対立し、維新は「密約」を暴露するなどして公明党に揺さぶりをかけましたが、決裂に至りました。背景には、公明党支持者にも「都」構想反対の意見が根強く、衆院選や地方選での「刺客」を指摘されても、ポストを入れ替えて当選し4年の任期を得ようとする。維新の思い通りにならなければ「あらゆる手段」を講じる手法への批判もあります。

「ラストチャンス」「一度だけ」と言っていた住民投票で負けたら再度挑戦するとの思い通りにならなければ「あらゆる手段」を講じる手法への批判もあります。

維新は、住民投票で否決されたので「バージョンアップ」するとしていましたが、特別区の数を五つから四つに変え、不評だった特別区の名称を変える程度です。

住吉市民病院の廃止により「医療空白」の危機を招いたことは、「二重行政の解消」のうたい文句の内実を露呈しています。

「都」構想による財政効果も、森裕之・立命館大学教授によると、そのほぼすべてが営業化・民間委託・経費節減で、これらを除外した「二重行政廃止」による財政効果は全体でわずか4000万円、大阪市（特別区）においてはゼロです。二方で、特別区設置の初期コストは520億円と試算されています。

共同で終止符

吸い上げた権限と財源で何をやろうとしているのでしょうか。「大阪万博」を「成り立つギャンブル大阪」の成長の「起爆剤」になるとうたうが、「明るい民主大阪府政をつくる会」と「大阪市をよくする会」が3日に開いた府民のつどいで、各界・各政党の代表が訴えました。（選挙で維新を止めればカジノも止まる）（平松邦夫・元大阪市長）、（「都」構想阻止とカジノストップの大義を掲げ、保守の方を含めお同じ維新政治に終止符を打つ）（日本共産党の山下よしき副委員長・参院議員）。大勝負の幕開けです。

権限も財源も

「大阪都」構想は、大阪市を廃止し四つの特別区に分割し、権限も財源も「都（府）」に吸い上げて、「一人の指揮官（知事）の下で好き放題のことができる体制」を作ることが狙いです。

維新は、住民投票で否決されたので「バージョンアップ」するとしていましたが、特別区の数を五つから四つに変え、不評だった特別区の名称を変える程度です。夢洲までの地下鉄延伸だけで約540億円？府市民の負担は、どこまで膨らむかわからず、生活関連予算が圧迫される恐れがあります。

なによりも、人の不幸を食べる「カジノ」を中核とする統合型リゾート（IR）の会場予定地だったからです。

万博の開催期間は半年ですが、IRは「永続的」（吉村市長）。IRを万博開催後はIRを拡充する考えです。夢洲までの地下鉄延伸だけで約540億円？府市民の負担は、どこまで膨らむかわからず、生活関連予算が圧迫される恐れがあります。

なによりも、人の不幸を食べる「カジノ」を中核とする統合型リゾート（IR）の会場予定地だったからです。

25年国際博覧会（万博）は大阪に決まりましたが、会場の人工島・夢洲（大阪市此花区）は、当初は候補地として名前も挙がっていませんでした。夢洲を万博人工島からカジノにした中核とする統合型リゾート（IR）の会場予定地だったからです。

「大阪都」構想NO！　維新政治に終止符を」と開かれた府民のつどい＝3日、大阪市

「あかんやろ！カジノ」と訴えパレードする入たち＝3月10日、大阪市